平成２８年度　第３回　尼崎市社会教育委員会議について

標題の会議が、次のとおり行われましたので報告します。

１　と　き

平成２８年９月９日（金）午後３時から午後５時まで

２　ところ

尼崎市庁舎北館３階教育委員会室

３　出欠状況

（1）　出席委員　　１０名

（2）　欠席委員　　２名

（3）　出席職員　　社会教育部長以下８名

４　会議成立の報告

司会者より定数１２名中１０名が出席し、会議が成立している旨の報告があった。

５　会議内容

協議事項

議題１　尼崎市総合計画における社会教育施策について

前回の会議で、事務局から総合計画に係る社会教育部関連施策「02 生涯学習と 17 地域の歴史」について、施策評価表に基づき、事業の進捗状況や達成度合い、事業の効果や課題などを点検・確認するための施策評価表について説明があり、委員のみなさんから、活発なご意見をいただいた。

今回は、施策評価について、市長査定を受けた二次評価(総合評価)について、事務局から施策評価表についての説明及び評価報告を受けて、市民・事業者の立場から協議を行った。

・目標指標とは・・・定量的に各施策の進捗状況を把握するために定める目標指標の推移

・市民意識調査とは・・・各施策に対する市民の重要度や満足度

・施策評価結果（二次評価）とは・・・担当局による自己評価の説明を受けての市長査定（総合評価）

【社会教育課長から説明】

■０２－０１施策の評価と取組方針

・　複雑かつ多様な社会課題に対応するため、行政内部の連携を一層密にするとともに、職員は地域住民やＮＰＯ、企業など多彩な地域主体とともに問題解決に取り組む必要がある。

・　地域と学校が連携・協働する体制（地域学校協働本部）づくりについては、学校支援コーディネートモデル事業の実施校の目標を含めた考え方を定め、できることから実施する。こうした地域の活動に対するコーディネート機能の強化等については、地域振興体制を再構築する中で、「みんなの尼崎大学」など学びの場の整理と合わせて検討を行う。

・　ブログ上での情報発信や「あまなびサポートデスク」でのレファレンス機能については、「みんなの尼崎大学」開校に向けて更に発展させていく。

・　図書館については、種々の取組の結果、近年低下傾向であった貸出冊数が増加に転じるなど、意欲的な事業改革の成果が現れている。また、中央図書館については城内地区の一角として、更なる取組が期待される。今後も利用者のニーズ把握を十分に行うとともに、公民館図書館の日曜日の貸出を実施するなど、更なる市民サービス向上に努めてい

く。

・ 施策の二次評価は「重点化」とし、平成２９年度の予算等を重点配分した上で施策を推進する。

● 平成２８年度実施新規事業及び二次評価につながる事業について

・ 親子ボランティア体験学習事業では、１日目は高齢者疑似体験を行い、２日目は特別養護老人ホームで高齢者との交流を図った。参加者からは（４組１０名)、親子で貴重な体験ができたとの感想があった。

・ あまらぶ歴史体験事業では、文化財収蔵庫と田能資料館を巡るバスツアーと親子で体験や施設見学（３回シリーズ：文化財収蔵庫・田能資料館・大庄公民館）を行う事業を実施した。多くの申込みがあり親子で施設を知り体験をすることができ有意義であったとの感想があった。

・ 学校支援活動コーディネートモデル事業では、地域で学校を支援する仕組みを促進するために、学校が求める支援活動と地域の人材をつなぐための調整役としてコーディネーターを配置するという事業（地域学校協働本部）であるが、今年度はモデル校として２校実施の予定であったが、学校や地域等の協力があり、現在５校にコーディネーターを配置することができた。

【中央公民館長から説明】

■０２－０３施策の評価と取組方針

・ 子育てや子どもの学びに関する各種取組については、学びあいや地域の交流促進につながっており、地域で住民を支援する環境づくりに寄与している。

・ 市民の生きがいづくりや交流の推進の観点から、歴史や文化等の地域資源を活用した学習にも、引き続き取り組んでいく。

・ 地域における課題解決力向上を支援するとともに、地域に密着し、学びや保健福祉、 防災などのあらゆる分野で地域や関係団体等をつなぐコーディネーター的役割を担う体制の整備等について、現在行っている地域振興センターのあり方等の検討の中で、併せて整理を行う。

・ 施策の二次評価については「転換調整」とし、より効果的な取組への転換に向け調整を行う。

●平成２８年度実施新規事業及び二次評価につながる事業について

・ 立花子育て広げようサミット事業では、立花地区で子育て支援に関わっている団体の絆を深め、地域の子育て支援に関する取組みを一層進めていくことを目的に、学びの場の提供として３回開催の予定をしている。１回目は７月に実施し、子どもの育ちや地域のお困り事などを自由に話し合うグループワークを行った。（公民館の登録グループ・幼稚園長・保育所長・民生児童委員の方等）２回目は立花地区の子育ての環境（強み・弱み）について共通認識したことをより深めていき、これから取り組めることを模索していこうと考えている。

・ 生き方探求キャリア教育支援事業では、昨年度試行的に実施したものであるが、地域の職業人の方に自分達の職業について子ども達に話をしていただき、学ぶ意欲の向上や自分らしい生き方について考える機会を提供するもので、今年度の実績としては、落語家の方、中小企業の方、いろんな職業な方に協力頂いて事業を実施している。

・ ワンコイン講座は、気軽に学べる学習の機会を提供して学んだことを地域に活かして頂

くという取組みである。講座で学んだ方々を公民館職員がグループ化に繋げるなどの働きかけを行い、次年度の公民館事業（夏休みオープンスクール等）で活躍していただきたいというねらいを持って取組んでいる。（下半期の事業）

【図書館長から説明】

●平成２８年度実施新規事業及び二次評価につながる事業について

- 図書の貸出冊数について、Ｈ２６年度は１３７万冊であったが昨年度は１５３万冊に増加した。図書館を如何に多くの方に利用して頂くかがキーワードとなるため多くの事業を実施した。事業については図書館だけでは限界があるため、NPO や他の関係課等連携・協力を図りながら様々な事業を行った。
- 特別整理期間の短縮を図り、開館日数の増加や公民館図書室の開架時間の延長等により利便性の向上を図っている。
- 夏休みお助けデスクの拡充を図り、夏休みの宿題等をする子ども達の助けを図書司書が行った。また、昨年度より長期間実施し、読書感想文の指導など図書館を利用したことが無い方に足を運んでもらう事業の展開を進めている。

【社会教育委員からの意見】

- 図書館では興味を引く楽しい取組みをされていると感心している。指定管理制度となった北図書館の取組み事業についても社会教育委員として知っておきたいと思っているので、適宜情報をいただきたい。
- 公民館事業のワンコイン講座とセレクト講座はどう違うのか。
- 総合評価の転換調整とはどういうことなのか。
- 02 生涯学習事業の中で転換調整として新規・拡充にすべき事業はあるのか。
- 社会教育委員会議においても、公民館等で学んだことを地域の活動に繋げて頂くことの重要性をこれまで話し合った経緯もあるので、拡充されることは望ましい。
- 公民館図書室の開架時間の延長や図書館の開館日数の増加に係る事業費が予算化されていないが、どのようにして実施しているのか。
- 従前からの課題であるが、公民館の登録グループの活動が自己完結してしまっていることについては以前から指摘を受けていたと思う。学びを地域に活かす・還元する動きが見られるようになったとのことであるが、具体的にどのような活動があるのか。
- 公民館グループの地域に活かす活動のについて、地域学校協働本部コーディネーターの方が学校へ繋いでいくことはできないか。
- 学校の希望を聞いて、公民館（活動グループ）に依頼するというのではなかなか活用され難い。学校が公民館にオファーするという発想はないので、もっと積極的に学びを還元していく取組みを進めていく必要があるのではないか。
- 学校現場としての悩みとして小学生は学校区外に行ってはいけないという決まりがあり、公民館事業に参加するネックとなっている。身近な地域学習館が閉館されているのも厳しい。
- 小学生が校区外に行ってはいけないというのは時代に即していないのではないか。
- 公民館のワンコイン講座のワンコインは誰が幾ら払うものなのか。
- 静岡県清水市の事例として、市民講師制度というのがあり市民の中から「教える人」を募集して講座を行っている事例がある。その講座では、受講者が直接講師に受講料を支払っておりやりがいやに繋がっている。そういった活用も参考にしてはどうか。

・ 公民館の活動や事業を、地域や学校に知って頂けるようプローチの方法を工夫してする必要があるのではないか。

【事務局から説明等】

・ ワンコイン講座とセレクト講座は別の事業であり、セレクト講座（市民大学）は、それぞれの公民館（６館）の市民大学の受講者が、他の公民館の市民大学の講座を１講座あたり５００円で受講できるというしくみの講座である。
・ 北図書館とは情報共有を図りながらコラボ企画等を行っている。今年度は北図書館長に、キャリアを活かした講演を中央図書館でしていただくなど、互いに切磋琢磨して共に伸びていこうと努めている。
・ 総合評価の転換調整とは、より効果的な取組みとなるように、施策の再構築や実施手法の見直し、他施策との連携・調整を行っていくということになる。
・ 公民館事業については、これまで多くの市民・グループの方に自己のスキルアップ等を目的として利用していただいているが、今後は、自己の学びを地域に活かす活動に転換していく方向にあることを「転換調整」とされている。既に取り組んでいるが、さらに進めていくという意味も含んでいる。
・ 公民館の図書室の開架時間については、これまで午後６時までであったものを２時間半の延長を行った。対応については、公民館に従事されているシルバー人材センター職員の方にお願いしているものであるが、業務内容の交渉の上、本の貸出と返却業務をこれまでの業務に追加して行っていただくこととになった。
・ 図書館の開館日数については、館内整理日や図書の特別整理期間を工夫により期間の短縮を図り、開館日数を増やしたものである。
・ 公民館登録グループの方々に、自分達で学んできたことを講師となって「教える活動」を協力依頼し、ボランティア講師がよる「夏休みオープンスクール」が実現している。内容は、絵画・語学・ダンス他様々な活動が実施できた。
・ 「夏休みオープンスクール」では世代間交流が図られ、教えることのよろこびを感じていただけたことは成果である。また、公民館職員がグループに働きかけることにより意識を高めることができたので、引き続き個人・グループの学びを還元する活動・講座について、企画委員会議や各館の工夫の中で広げていきたいと考えている。
・ 地域学校協働本活動については、主に学校の要望によってコーディネーターの方が調整を行う活動をしており、現段階では学校を支援するグループを繋ぐ活動が中心になっている。今後の進み具合により、公民館との連携も必要になってくると思われる。
・ 公民館事業の中で「地域お出かけ事業」というものがあり、地域学習館にこだわらず図書室や保育所などに出向いて講座を行う事業を実施している。講師は専門職の方だけではなく受講生の活用もしており今後も充実させていきたいと考えている。
・ ワンコイン講座については、専門の講師の方を依頼して行っているもので、参加者の趣味的なものであるため受益者負担が必要との考えから、参加者から５００円を負担して頂いている。
・ オープンスクール等で、グループの方や受講者が講師となる場合は、基本的にはボランティアで行っている。

【スポーツ振興課長から説明】

■０２－０２施策の評価と取組方針

・ 生活習慣病や介護予防の観点からも市民の健康維持は引き続き重要な課題であることから、「尼崎市スポーツ推進計画」に基づ き、より効果的な情報発信や事業実施手法を実践しながら、同計画の数値目標である「健康を意識した運動やスポーツを心がけている市民の割合の１０％増」に向け取組を進 めていく。

・ 学校開放事業については、利用実態に即した効果的な運用に努めるとともに、地域に身近なスポーツの拠点として誰もが参加しやすくなる工夫を行い、利用者増にも努める。また、地域運営についても試行の結果を踏まえ、将来的に他の学校へ拡大できるよう、取組を進めていく。

・ 施策の二次評価は「現行継続」とし、これまでの取組を基本としながら、効果的な施策遂行に努める。

●平成２８年度実施新規事業及び二次評価につながる事業について

・ 誘致大会観戦者及び市民スポーツ大会参加者については、市民の参加者割合１０％増に向けて進めているところであるが、現段階では概ね前年同様実績並みとなっている。

・ 生涯スポーツ･レクリエーション事業については､参加者は年々減少方向となっている。今年度についても今の見込みでは減少の傾向であると思われる。その中でも、スポーツ推進委員による要請指導（団体からの要望に応じて出向いてスポーツ指導を行う）については、今年度前半において団体からの要請が例年より少ない状況である。しかし、今後、運動会や秋の各種スポーツ大会で増えていくと思われる。今後、スポーツ推進委員とタイアップして積極的に委員会から発信できるような取り組みを広めていきたいと考えている。

・ 学校開放運営事業の利用者数は年々減ってきていたが、平成 27 年度は微増となっており、今年度についても今の状況であれば１割近く増加の見込みである。これは、各学校の耐震化工事が終息してきているので、利用できる学校が増えてきていることによるものと考える。

・ 地区体育館等利用者数については、スポーツ振興事業団が開催している各種教室・一般開放や体育館貸館事業であるが、近年減少傾向であったが昨年度は増加に転じている。今年度は､若干増加するペースできている｡また､スポーツ振興事業団と協議する中で、アンケート等でどういった教室の要望があるかを調査を行い、今後の事業について検討していく。

・ 全体的には、体育館等の事業については増加傾向にあるが、生涯スポーツに係る事業については伸び悩んでいる状況にある。

・ 学校開放事業については、今現在見直し作業をしており地域による運営ができないか模索している状況にある。杭瀬小学校のスポーツクラブをモデル段階として平成２９年１月から運営試行していく方向で調整を行っている。いろいろとハードルや課題（学校の管理）もあり紆余曲折を経た中でより良いやり方が決まっていくと思われる。

【社会教育委員からの意見】

・ 夏休みラジオ体操の誘致について、多くの市民の方が参加しとても良かった。

・ 地域の子育て家庭の現状をみると、経済的に困難な家庭が増加している。有料の事業には参加できない家庭もあるので、子ども達の健康増進のために学校外で参加でき無料で楽しめる

事業はないか。

- 経済的な困難を抱えている家庭の多くは、文化的な部分でも乏しい状況にあると思われる。スポーツの街尼崎としては、健康増進のためにもそういった子ども達が学校外で楽しく過ごすことができる場所・機会を考えていいただきたい。
- 市が行う事業に関して、貧困家庭への援助のあり方と、一般家庭に対しての考え方は整理する必要がある。何でも市が関与するものは無料でという考え方は問題である。意識改革も同時にする必要があるのではないか。
- 学校で見える貧困家庭の実態はどうなっているのか。
- 貧困家庭の割合は地域によって違いがある。しんどい家庭の状況としては、親は生活のために働くのに精一杯で、子どもを見る余裕がなく放課後に子どもの行き場所がないさびしい思いをしている子どもがいる。大庄地区では、地域で駄菓子屋をつくりそこに来る子どもたちへ声かけをすることで地域で子ども達を見守っている。
- 就学援助を受けている家庭数は尼崎市では増加している。学校から帰ってから教育的配慮がされている場で過ごすことができる子どもと、街の中でふらふらと過ごす子どもでは違ってくる。子ども達は午後６時ぐらいまで過ごす場所が少ない実態がある。
- 今後の施策展開の中で、子ども達がやりたいことができる場所の提供、気軽にスポーツなど楽しめる事業を検討していただきたい。

【事務局から説明】

- スポーツ推進員が行っている活動は無料で実施しているが、平日の午前中であるので参加が難しいかもしれない。団体等から要請があれば出向いて指導も可能である。

【歴博・文化財担当課長から説明】

■１７－０１施策の評価と取組方針

- 地域の歴史や文化財に関する調査研究・資料収集、調査研究成果の情報発信の取組により、文化財収蔵庫・田能資料館での展示会の観覧者数が増加するなど、着実な成果が見られる。
- 歴史館機能の整備を機に、限られた財源の中、既存資料のより一層の活用や他市施設などとの連携による展示内容の充実に努めるほか、市制 100 周年記念新「尼崎市史」の発行や web など様々なコンテンツを用いて市内外へ情報発信していくことで、幅広い層に地域の歴史に興味を持ってもらい、協働のまちづくりへとつながる取組を進める。
  （市制 100 周年記念新「尼崎市史」の発行については、地域研究史料館の所管事業である。）
- 施策の二次評価は「現行継続」とし、これまでの取組を基本としながら、効果的な施策遂行に努める。

■１７－０２施策の評価と取組方針

- 今後寄贈を受ける尼崎城や新たに取得する富松城跡といった歴史資源と連携した、城内まちづくりや歴史館の整備に取り組む。これらの整備を機会に、市内外の幅広い層に地域の歴史に興味を持ってもらうことに加え、周辺の商店街なども含め、地域資源を最大限活用する方策を検討するなど、「16 文化・交流」施策と連携した取組を進めていく必要がある。
- 地域の歴史に触れる機会、学ぶ場の提供により、主催事業の参加者数やボランティアとして協力いただける人数は着実に伸びている。今後とも、田能遺跡サポーター養成事業など、地域の歴史に触れる機会の創出を通じて、対象の拡大に努めるとともに、さらなる郷土愛の醸成、協働のまちづくりにつなげていく。
- 施策の二次評価については「転換調整」とし、より効果的な取組への転換に向け調整を行う。

■１７－０３施策の評価と取組方針

・　勾玉づくりなどの体験型事業や社会教育施設をめぐるバスツアーなど、行政からアプローチする事業の実施を通じて、幅広い層に地域の歴史に興味を持ってもらえるよう取組を進める。
・　新聞などでも取り上げられ、来館者数の大きな伸びにもつながった田能資料館の茅葺き替えなどのように、地域の歴史に関心を持ってもらい、市民と協働して、地域の貴重な施設を保存や活用していく取組を進める。
・　施策の二次評価は「現行継続」とし、これまでの取組を基本としながら、効果的な施策遂行に努める。

●平成２８年度実施新規事業及び二次評価につながる事業について

・　富松城跡の取組みであるが、富松城跡地の取得については私有地との交換を軸に国との交渉を進めており、近々交換契約の締結が整う方向である。取得後は地域資産として地域のみなさんと適切に保存管理するとともに、歴史遺産を活かした市民との協働のまちづくりを図っていきたいと考えている。
・　尼崎城天守の再建については、企画財政局が窓口となり庁内関係者が連携して調整を進めている。尼崎城址公園内に、天守は鉄筋コンクリート造り５階建て、二重の渡り櫓を一部復元予定で、年内に着工し平成３０年中に竣工予定となっている。
・　文化財収蔵庫入館者数は、企画展等が新聞に大きく取り上げられたこともあり昨年度実績の１０％増（現在７，９００人）となっている。
・　市民協働企画展「伝えたい尼崎の伝説」については、文化財収蔵庫で活動されているボランティアの方と一緒に企画・開催している。また、ボランティアよる人形劇の上映なども関連事業として計画している。
・　田能資料館の企画展の入管者数は６月末までで１４，８００人となっており、後期も特別展・後期の企画展も計画している。
・　田能遺跡サポーター養成事業については、昨年度から引き続きの方と新規の登録者合わせて２８名のボランティア登録があり、学校からの団体見学時や勾玉づくり事業など日常的に活動していただいているのが１２、３名おられる。
・　サポーター養成講座として、田能遺跡についての概要の説明、勾玉づくりの指導法など随時上級講座も実施している。
・　１２月から１月にかけて茅の葺き替えを行う予定である。茅葺き職人よる講習会を実施するとともに、事業については協働のまちづくりを目指しボランティアの方を主体として進めている。

【社会教育委員からの意見等】

・　尼崎市人権啓発推進リーダーのグループで田能資料館へ行ってきたが、ボランティア・職員の方々に詳しく楽しく説明をして頂いた。また、遺跡保存の経緯を知りその地元の方の熱意に感動した。
・　田能資料館入館者の 27 年度の大幅な伸びの理由は何か。
・　尼崎城の再建の場所に、まだ遺物・埋蔵物がある可能性があるのか。
・　尼崎城跡の発掘については、柏原藩陣屋跡の展示のように発掘現場のままを固めるなど見えるような保存処理をしていただき武家屋敷があったとイメージできる保存を検討して頂きたい。
・　城内まちづくりや歴史館の整備に取り組むとあるがどのようなことか。
・　尼崎城の再建の周辺は公園になるのか。

【事務局から説明】

- 茅葺き復元事業については、昨年度は国から７００万の補助金があり茅葺き職人が中心となって葺き替え作業を行ったが、今年度は事業費は５０万のみであるので、本当にボランティアによる手づくりの修復になる。
- 田能資料館入館者数については、企画展などの展示期間を延ばしたことや茅葺き復元に関する展示などを行ったこと、また、メディアに取り上げられたことにより入館者の増につながった。
- 尼崎城跡（城址公園）は、以前県立病院があり撤去後（平成元年）にすべて遺跡調査は終わっており、病院が９階建てであったため極々僅かのみしか遺跡は残っていなかった。図書館の駐車場周辺は、中の上クラスの武家屋敷であったが、これまで大きな建物が建った形跡が無いため江戸時代の武家屋敷に伴う遺構が出てくる可能性は極めて高い。歴博・文化財担当としては、あまり建物を建てず地下の遺跡を残して頂きたいとお願をしている。
- 「歴史館」については、現在の文化財収蔵庫は１階のみ使用している状況であるが、施設の耐震診断の結果、若干の補修は必要であるが３階まで整備をして活用を計画している。従来の城内まちづくり基本指針等で「（仮称）歴史文化センター」と呼ばれていたものを「歴史館（仮称）」としたものである。現在の文化財収蔵庫の機能に総務局の地域研究史料館を含め歴史に関する機能を集約し情報提供できる施設とする。
- 尼崎城天守の南側の図書館駐車場周辺は、現在の計画では芝生広場になる予定である。

〔議長から〕

委員のみなさんから、施策評価表を基にして、市民・事業者の視点から活発なご意見をいただきました。しっかりと活かせるものについては、今後の取組に繋げて頂きたい。

６　その他報告事項等

- 阪神南地区研修会　１１月８日（火）中央図書館
  （仮）「学びを通した協働の取組」　地域環境計画研究所　若狭健作氏
- 平成 28 年度社会教育関係団体等役員名簿（現在 27 団体：（新規登録）尼崎市スポーツクラブ 21 連絡協議会・尼崎市女性団体協議会）

以　上